

注:本年度 6 月に理事監事ともに任期満了になり、役員交代するため、2月時点の平成 27 年第2回理事会で決める当事業計画で、担当者肩書は旧年度の肩書のまま表記している。事業実施で総会終了以後の担当者は上記後継者とする。

### 中長期(5年)計画

- ① 当協会調査では国内滑空団体所属会員総数は 3,000 人、公益財団法人日本学生航空連盟 OB 数は 10,000 人。当協会は国内滑空スポーツ統括団体として、全ての愛好家を考慮した施策を行う。また航空スポーツ発展のため、“空”の仲間である航空スポーツ諸団体と連携する。
- ② 滑空スポーツ振興として、“安全”と“楽しさ”を目標とする。  
“安全”:国内滑空クラブと密接に情報共有し、安全意識を高め、重大事故発生を防ぐ。  
“楽しさ”:滑空スポーツ愛好者の“夢”の実現を支援する事業を実施する。
- ③ 滑空スポーツ活動を基礎技術習得である場周飛行とローカルソアリングから、本来の活動である野外飛行を推進し、競技会振興を図り、日本滑空選手権を再開する。

### 平成 28 年度基本方針及び重点施策

- \*平成 28 年度総会(6月)後、理事および監事の交代。次回理事会で具体的準備を行う。
- \*委員会規程を制定し、委員会を設置する。個々の委員会は理事会の承認を得て設立する。
- \*滑空スポーツ公益基金を新設し、滑空スポーツ公益事業の実施資金準備を行う。  
2月13日開催理事会で以下を決定した。  
今年度(平成 27 年度)、滑空スポーツ公益基金に 100 万を積み立てる。  
平成 28 年度は後日理事会で積立額を決定するが、予算案として 100 万を計上する。
- \*平成 27 年度はグライダー関係で航空安全委員会にリストアップされた事故・重大インシデントが 8 件を数え、1名死亡、2名重傷の結果となった。同年 6 月以後、その週に発生した事故を JSA 事務局より全国滑空団体に伝達し、週末飛行前のブリーフィングで紹介していただくよう努めている。
- \*平成 27 年 12 月に航空法一部改正があり、無人機の飛行に制限が加えられた。滑空場周辺でのラジコン機とのニアミス解消改善を図りたい。
- \*平成 26 年 10 月に初回実施した埼玉スカイスポーツフェスタは注目を集めた。昨年度実施日 10 月 25 日は快晴ながら最大 15m/s の強風で、レッドブル・エアレース 室屋義秀氏の華麗なデモ飛行が人気を集めた以外、地上展示および子供模型教室を実施、体験飛行は中止された。強風にもかかわらず、前年の倍 12000 人の来場者があり、継続の効果が認められた。今年も航空スポーツ全体の底辺拡大、航空思想普及を目指して、より盛大に開催する予定。実施は参加団体で作る実行委員会が別予算で実施するため、実行委員会を通じての活動となる。
- \*平成 26 年晩秋開催されたクラブミーティングは大野(H27、11月)、長野(H28、6月)、板倉(H28、11月)と続いている。我が国滑空界を変えるには自ら動かなければならないとのコンセンサスを得た。実際の成果を期待したい。

## 1. 滑空スポーツ統括普及に関する事業

### 1.1 各種外部委員会での活動

当協会は官公庁、航空界に対して滑空界代表として活動している。

- ・航空医学委員会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事)
- ・技量維持連絡会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事)
- ・学科試験問題検討委員会(事務局 JAPA JSA 小野淳委員)
- ・裾野拡大プロジェクト(事務局 JAPA JSA 吉田常務理事)

## 1.2 滑空スポーツ関連の調査

滑空スポーツ基礎データ(滑空場、滑空機、機材、愛好者、活動)調査、集計を行う。

## 1.3 航空関係諸団体との連携

### \* 滑空団体との連携

- ・国内滑空団体にメールで情報提供を行い、特に事故防止に努める。
- ・クラブミーティングを通じて滑空界全体の意向を理解し、活性化を醸成する。(日口理事)

### \* FAI(IGC)

日本代表: Delegate 丸山理事、Alternate Delegate 甲賀常務理事

- ・滑空スポーツの世界ルールである Sporting Code の普及に努める。(丸山理事)

### \* 航空スポーツ団体との連携

- ・SSF2016 にほぼすべての航空スポーツ団体が加盟しており、この活動を通じて、連携を深める。

10月妻沼滑空場でイベントを開催し、各航空スポーツ団体の特性にあわせて、教室、地上展示、デモ飛行、体験飛行を提供する。

SSF 実行委員長 井上理事、JSA 実行委員: 吉田常務理事、甲賀常務理事

### \* 自衛隊、使用事業などとの連携

- ・関東地方空域に関する連絡会を通じて連携を図る。

## 1.4 情報発信: 各種広報手段について内容充実、編集メンバー強化策の実施

- \* ホームページ運営 担当坂井常務理事 渡辺翼、五十嵐健大

- \* 機関誌発刊(7、11、3月、全3回) 編集長久田雅樹 委員坂井常務理事

## 2. 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業

### 2.1 指定航空従事者養成施設

- \* 制度運営 設置者: 佐藤会長、管理者: 鈴木常務理事

事務局長: 玉中宏明、監査人: 谷口監事

### 2.2 日本滑空記章制度

- \* 運営: 事務局

- \* 技能証明実地試験細則改訂、特定操縦技能審査制度導入に対応し、インストラクターマニュアルとの整合を取りつつ、規定を改訂する。

### 2.3 講習会・セミナー

- \* 滑空スポーツ講習会 2015(事務局)

TOTOくじ助成金(独立行政法人日本スポーツ振興センター)対象事業として申請済。滑空スポーツ各分野(操縦技術、航空力学、気象、航空交通規則、健康等)について、新しい専門家を講師に依頼し、各地で開催する。

#### \*航空安全講習会(事務局)

航空局通達に基づく、自家用操縦士の技量維持のための講習会として技量維持連絡会(航空関係5団体)と連携して実施する。

特定操縦技能審査制度が実施され、各滑空団体内の審査員が実施するようになって来ている。

### 3. 滑空スポーツ競技会に関する事業

将来的に日本滑空選手権をFAI カテゴリー2で開催し、その中からWGC出場選手を選び、ナショナルチームとして参加することを目標に、準備を進める。

#### 3.1 競技会主催

平成27年度よりOLCをJSA後援として実施している。昨年IGC総会時、OLC本部に協力を依頼、日本向けの集計および日本語化を進めていただいた。(丸山理事)

#### 3.2 競技会后援:協会規程に基づいて、国内滑空競技会の後援を行う。(事務局)

\*銅章レベルの滑空スポーツ競技会:日本滑空協会賞授与

\*C章レベルの滑空スポーツ競技会:滑空奨励賞授与

\*その他(滑空スポーツ記録会等):滑空奨励努力賞授与

#### 3.3 海外選手権への選手派遣(推薦、支援)

\*2016年予定は下記。

34th FAI World Gliding Championships Pociunai, Kaunas (Lithuania) 30 Jul to 13 Aug 2016

2016 FAI World Sailplane Grand Prix Championship Potchefstroom (South Africa)  
02 Nov to 12 Nov 2016

34th FAI World Gliding Championships Benalla (Australia) 08 Jan to 21 Jan 2017

### 4. 法人事業

#### 4.1 会員

\*滑空スポーツ愛好者の高齢化が進み、飛行活動からの引退と共に協会からの退会が増加している。これに対して若年層の会員登録が少なく、世代交代がスムーズに行われていない。

#### 4.2 法人の体制強化、事務局業務の整備

\*公益社団法人化後ほぼ2年半経過し、大過なく運営している。会員数減少に伴う収入減に対応して、事務局稼働日週1日削減などの経費削減を行っている。ただしマンパワー不足は否めない。

#### 4.3 会議

\*理事会:平成28年第1回理事会(総会議案策定、役員改選)  
第2回理事会(総会後の会長、常務理事互選)

第3回理事会(平成 29 年度事業計画案・予算案策定)

\* 定時総会:平成 28 年度決算報告承認、役員承認、事業報告

以上